

みなと祭り

登場人物

沢村朋子 (55)

主婦

沢村絵美 (25)

朋子の娘

概要

沢村絵美（25）は、母の朋子（55）に誘われて、母の故郷である宮城県塩釜市を訪れる。

津波によって更地になった生家跡を訪れ、幼い頃に思いを馳せる朋子。朋子の思い出は絵美に伝えられた。目に見えるものが消えても、思い出は伝えられるのだ。

そして、海の安全を願う、『みなと祭り』の盛況に、こうやって人が集い、一つの事を願う事が、街を守る、思いは伝わる、防災の気持ちに繋がるのだと知るのであった。

S E 鐘と太鼓の音

絵美 N 白装束に烏帽子の担ぎ手が、山の上の神社から神輿を下ろしてくる。

絵美 わっしょい、じゃないんだね。

朋子 そうだね、賑やかかっていうより……
厳か？

S E 笙の音

絵美 N 急な石段を降りきって、担ぎ手の烏帽子装束の人たちも汗だくだ。皆がその健闘を称える。

S E 神輿に向けて起きる観客の拍手

絵美 お母さんは何年ぶりなの？ このお

祭り……お神輿見るの？

朋子 そうね、四十年……四十五年ぶりか

な？ ……なのになんとも変わってない。

絵美　小さい時に見たのを覚えてるの？

ちやんと？

朋子　不思議だけど、ちやんと覚えてるの。

あの鐘の音も、聞いた途端に『そうそう！』
って思った。

絵美　また見られて良かったね。

朋子　うん。一人じゃ来る気になれなかつ

かも。付き合ってくれてありがとうね。

絵美 N　この夏、母から旅行に誘われた、

というよりは、お願いされた。故郷を見に
行くのに付き合ってほしい、と。母の生ま
れたのは宮城県塩釜市。そう…：東日本大
震災での被害地域だ。母の母、つまり私の
祖母はこの街に嫁ぎ、そして離婚してこの
街を出ていた。母は祖母に連れられて出て、
それ以来一度も帰っていないという。

朋子 お神輿の先回りして、港の方へ行こうか？ お母さんの生まれた家のあった場所も見たいし。

S E 雑踏を抜ける音。

絵美 N 通りには人通りがあるが、道路脇に建物は少なく、がらんとして見通しが良い。

S E 祭りの屋台の呼び込みなど

絵美 N 通りを進むと、母の顔が曇って来た。

朋子 なんにも無い……。。

絵美 N 所々にコンクリートの建物があるものの、更地の区画が続く。道路の両脇はがらんとしているのに、道路には人が溢れている。不思議な光景だ。

S E 祭りの音、雑踏の音

S E 強風の抜ける音

朋子 海風が強い……。そうそう、こうだった……。通りに立つと風が抜けるの。

絵美 昔もこうだったの？

朋子 昔はね、駅前が目抜き通りの続きでね、ぎっちりお店が並んでたのよ。うちの隣は星電気店、通りの向かいのひらま写真館で、七五三の写真も、小学校に入る時の記念写真も撮って貰った。ほら、あの辺りにあったの。バス停の所の文房具屋さんで可愛いシールを買って集めて……。。

S E 遠くなる祭りの喧騒

絵美 N 母は夢中で、自分の思い出を語り出した。きっと母の目には昔の景色が見えているのだろう。七歳まで過ごしたこの街の記憶。

S E ブルーシートのはためく音

朋子 こっちに行っていていい？ 家があった方。

絵美 N 母について進む。更地の区画にはブルーシートと土嚢が置かれていて、未だ津波の影をしつかりと感じる。

S E 砂利や土を踏む足音

絵美 N 母が空き地に足を踏み入れる。津波で海水に浸かった地にはすぐには雑草は生えないと聞いたが、ぽつぽつと草が見える。

朋子 ここよ。

絵美 ん？

朋子 ここなの。お母さんが住んでた家、生まれた家があった所。

絵美 ここ？ 随分街の真ん中だし――

朋美　　そう、おばあちゃんが床屋を、おじ
いちゃんが靴屋をやったの。

絵美 N　港からすぐ。海のすぐそばだ。

朋美　　もう古かったしね、おじいちゃんも
おばちゃんも亡くなって、お母さんのお父
さんが一人で住んでたんだけど、津波で壊
れちゃった。

絵美　　それって私のおじいちゃんでしょ？
無事だったの？

朋子　　ああ、それは無事だったよ。次の年
に病気で亡くなったけど。

絵美　　え？　知らなかった。

朋子　　お母さんも大分経ってから知ったか
ら。もうずっと会ってなかったしね。

絵美 N　母はあまり実の父のことを語りたが
らなかったの、私も深く聞いた事は無い。

昔の事……という様な言い方をしていた。

だから、今回、生まれた街を見たいと言われたのは意外でもあったのだ……。

絵美　こんなに海の近くに住んでたんだね。

朋子　知らなかった。海と家との間には色んな建物があつて、お母さん子どもだったから距離感とか分かってなくて。

絵美　（笑みを含んで）すごい近いじゃない？

朋子　（笑みを含んで）そうよね、びっくり。

絵美　小学校一年生までここに居たんだよね？　七歳までかあ。

朋子　そう。ベークンといえば鯨だと思つてた。海の子だよね。

絵美　（笑って）それ、何度も聞いた。銀ダラが大好物で安上がりな子だって言われた、昔は安い魚だったんだ、って銀ダラ食べる度に言うんだもん。

朋子　（笑った後に）港の方行ってみよう

か？ さっきのお神輿が船に乗る所見ないと。

絵美 お神輿が船に乗るの？

朋子 そうよ、海の安全祈願だもの。つて、お母さんも子どもの時は知らなかったけど。

絵美 N 私たちは港の方へ進んだ。

S E 近づいて来る、祭りの喧騒

朋子 屋台もいっぱい出てるわねえ。

絵美 ねえねえ、水族館建設予定地だって。ここに出来るのかな？

絵美 N 駐車場にそんな看板があった。津波で更地だらけになった土地に新しくそんな施設が出来るらしい。他にも津波の時には等の注意喚起の案内に目が行く。子どもたちが熱心に読んでるのが微笑ましい。

S E ステージの民謡歌手の声

朋子 ほら、あの船。

S E 人々の喧騒

S E 船のモーター音

絵美 N 鳳凰と龍をかたどった船が見える。
華やかな装飾で、神輿を迎えて、海に繰り
出す。送り出す人々の歓声が響く。

S E 子どもたちの「行ってらっつし

やーい」の声等

朋子 もう一度見られて良かった。また来
られて良かった。もう生まれた家は無いし、
故郷の思い出は何も無いかと思っただけど、
こうやってお祭りは変わらずあつて……、
懐かしかった……良かった。

絵美 うん。私もお母さんと一緒に来られ

て良かったよ。

朋子 絵美……付き合ってくれてありがとう。
ちよつとね、一人で来るのは怖かったんだ。

絵美 何も無くなってるの見るのは辛い……
……よね……。

朋子 ……うん。でも。津波の被害はあつたけど、またみんなが元気で海の安全を願ってる姿を見て、それが防災になるんだな、ってわかった。みんなで一つの事を願って何をすべきか考える。お祭りにはそんな意味もあるんだね……。思いを確かめる……。
絵美 うん。お祭りが防災意識を高めるのに役に立ってるよね。

朋子 お母さんは離れたけど、こうやって故郷が守られてるの見て安心出来た……。

絵美 水族館出来たら来てみようよ。

朋子 今度はお父さんも一緒に。

絵美 うん。

了